

ので、イスラームをながめた場合、魂の問題をきちんと論じるのはスーフィズムと哲学（ファルサファ）の教説の一部以外にはないですし、自分がなにかするならばこの領域以外にはないだろうと思いました。魂が完成を目指して進むという過程をイスラームの神秘家たちが種々に論じており、それを追っていきと最終的には神のもとに到達するようなことも言っています。日々文句をいいながら回りに迷惑をかける存在でしかないですが、自分自身を見つめる見方のようなものをそういった議論は示唆してくれているように思っています。

司会 先生には、40年以上ご厚誼を忝くしておりますけれども、今日初めて何う話もたくさんありました。私はやはり、厳格な文献思想研究者というイメージで、尊敬を持って先生にずっと接してきたのですが、民間信仰まで関心がおありとか、もっと広い視野で物事を見てこられたことを教えていただきました。先生、今日はありがとうございました。

鎌田繁先生——業績——

- [a] 単行書など
- [b] 論文など
- [c] 小論文・事典項目・学会発表要旨・資料紹介など
- [d] 書評・新刊紹介など
- [e] 翻訳など
- [f] エッセイその他

1976 年度

- ・「イスラム神秘主義—サッラージュのシャタハ (shath) 観について」『宗教研究』第 50 巻第 3 輯 (230 号)、181-182 頁 **[c]**
- ・「コーラン」(I、500-501)、「サヌッシー教団」(VI、117)、「シーア派」(VI、230)、「スーフィズム」(VII、485)、「スンニー派」(VII、534)、「マホメット」(XIII、87)、「メフレビー教団」(XIII、372)、「ラマザン」(XIV、179)、『国民百科事典』平凡社、(1976-1977 年) **[c]**

1977 年度

- ・「サッラージュの神秘階梯説」『オリエント』第 20 巻第 1 号、1-15 頁 **[b]**
- ・「S.H.Nasr, *Islam and the Plight of Modern Man*」『宗教研究』第 51 巻第 1 輯 (232 号)、109-112 頁 **[d]**

1979 年度

- ・「サッラージュによるスーフィーの理想的生活について」『日本オリエント学会創立二十五周年記念オリエント学論集』日本オリエント学会編、刀水書房、181-199 頁 **[b]**

1982 年度

- ・“Nābulūsī’s Commentary on Ibn al-Fārīd’s *Khamrīyah*”, *Orient*, 18, pp. 19-40 **[b]**

- ・「日本イスラーム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修『イスラーム事典』『季刊東西交渉』第1巻第4号、38-39頁【d】

1983年度

- ・「サドルッディーン・シーラーズイーの思想における靈魂 (nafs)』『オリエント』第26巻第2号、181-182頁(「日本オリエント学会だより」[1]第25回大会)発表要旨【c】
- ・「ズィクル dhikr をめぐるイブン・アラビーの冥想』『宗教研究』第57巻第3輯(258号)、1-21頁【b】
- ・「サドルッディーン・シーラーズイーの思想における靈魂 (nafs)』『オリエント』第26巻第2号、31-44頁【b】
- ・“A Study of the Term *Sirr* (*Secret*) in Sufi *Laqā'if* Theories”, *Orient*, 19, pp. 7-28【b】
- ・「ハディース編纂の初期の展開とズフリーの活動について』『季刊東西交渉』第2号第4号、52-58頁【b】
- ・R. ベル著/熊田亨訳『イスラームの起源』『史学雑誌』第92編第12号、105-106頁【d】
- ・「資料紹介: 昭和57年度一文学部編 Collection of Islamic Studies』『東京大学附属図書館月報 図書館の窓』第22巻第12号、118-119頁【c】
- ・「新刊紹介: 井筒俊彦『イスラーム哲学の原像』、井筒俊彦『コーランを読む』、中村廣治郎『ガザリーの祈祷論—イスラーム神秘主義における修行—』、R. A. ニコルソン(中村廣治郎訳・解説)『イスラームの神秘主義』『東京大学宗教学年報』第1号、102-103頁【d】

1984年度

- ・『モッラー・サドラーの靈魂論—真知をもつ者たちの靈薬』校訂・訳注並びに序説(イスラーム思想研究会報告1)、イスラーム思想研究会(東京大学文学部イスラーム学研究室内)【a】
- ・「クルアーン第二章第三五節(「光の節」)の神秘主義的注釈について』『日本オリエント学会創立三十周年記念オリエント学論集』日本オリエント学会編、刀水書房、193-209頁【b】
- ・「イスマーイール派」(II、276)、「イブン・タイミーヤ」(II、582)、「イブン・ハンバル」(II、583)、「イマーム」(II、599)、「ウラマー」(III、274)、「カーディー」(V、453)、「カルマツト派」(V、921)、「シーア派」(X、503)、「シャーフィイー」(XI、385)、「シャーフィイー学派」(XI、385)、「十二イマーム派」(XI、573)、「[ウマル・]スフラワルディー」(XIII、133)、「[ヤフヤー・]スフラワルディー」(XIII、133)、「スンナ」(XIII、251)、「スンニー派」(XIII、251)、「ズーン・ヌーン」(XIII、251)、「ハサン・サッパーフ」(XVIII、684)、「ハワーリジュ派」(XIX、231-232)、「ピスターミー」(XIX、549)、「ブハーリー」(XX、474)、「ムハッラム祭」(XXII、652)、「モッラー・サドラー」(XXII、896)、『日本大百科全書』小学館、(1984-1989年)【c】
- ・「『イスラーム事典』、『イスラーム辞典』』『地中海学会月報』第71号、7-8頁【d】
- ・「アブドルワッハブ・ハッラーフ著/中村廣治郎訳『イスラームの法』』『朝日ジャーナル』1984年8月3日号、69頁【d】
- ・「Syed Shah Khusro Hussaini, *Sayyid Muḥammad al-Husaynī-i Gīsūdīrāz* (721/1321-825/1422): *On Sufism*』『宗教研究』第58巻第2輯(261号)、127-131頁【d】

1985年度

- ・「モッラー・サドラーの輪廻 (tanāsukh) 思想』『イスラーム世界』第23/24号、55-68/144-145頁【b】

- ・「モッラー・サドラーの神秘思想における輪廻 (tanāsukh)」『宗教研究』第 58 巻第 4 輯 (263 号)、127-128 頁 【c】
- ・「シーア派の発展—モッラー・サドラーを中心にして」『講座イスラム I イスラム・思想の営み』中村廣治郎(編)、筑摩書房、169-205 頁 【b】
- ・「イスラーム神秘主義研究」『東京大学宗教学年報』第 3 号、121-131 頁 【b】
- ・ゲアハルト・ベージェリング(著)「イスラームの場合—存在についてのスーフィー的洞察」『神の知られざる顔 宗教体験の根本構造』ピーター・L・バーガー(編)、教文館、179-204 頁 【e】
- ・「モッラー・サドラーの〈万有帰神論〉訳注」『東洋文化研究所紀要』第 100 冊、53-131/ii 頁 【b】
- ・「新刊紹介：フリッツ・スタール『神秘主義の探求—方法論的考察』、川床睦夫編『シンポジウム：イスラームの宗教意識とその周辺—中近東の宗教意識の諸側面』、中村廣治郎「ガザリーの宇宙論」『東京大学宗教学年報』第 3 号、162、185 頁 【d】
- ・「Samuel M.Stern, *Studies in Early Ismā‘īlism*, 1983」『オリエント』第 28 巻第 2 号、100-101 頁 【d】
- ・「イスラーム思想の研究」『季刊東西交渉』第 4 巻第 2 号、13 頁 【f】
- ・「柳川先生と自主ゼミ」『東京大学宗教学年報』第 3 号(別冊)、26-27 頁 【f】

1986 年度

- ・「新刊紹介：井筒俊彦『意味の深みへ—東洋哲学の水位』、R.S.Martin (ed.), *Approaches to Islam in Religious Studies*, 井筒俊彦「イスマイル派「暗殺団」—アラムート城砦のミュトスと思想—」上・下」『東京大学宗教学年報』第 4 号、118、136 頁 【d】
- ・「中村廣治郎「ガザリーの法学 (fiqh) 観」『法制史研究』第 36 巻、377-379 頁 【d】

1987 年度

- ・「イスラーム神秘思想における終末の理解」『宗教研究』第 61 巻第 4 輯 (275 号)、247-248 頁 【c】
- ・「「イスラム研究写本コレクション」紹介」『東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター報センター通信』第 28 号、7-9 頁 【c】
- ・“The First Being: Intellect (*‘aql/khiradh*) As the Link Between God’s Command and Creation According to Abū Ya‘qūb al-Sijistānī”, 『東洋文化研究所紀要』第 106 冊、1-33 頁 【b】
- ・「新刊紹介：Takeshita, Masataka, *Ibn ‘Arabī’s Theory of the Perfect Man and Its Place in the History of Islamic Thought*」『東京大学宗教学年報』第 5 号、164 頁 【d】
- ・エヴァ・ドゥ・ヴィトレ＝メイエロヴィッチ(著)「イスラームの詩学」『記号の横断』ジュリア・クリステヴァ(編)、せりか書房、275-320 頁 【e】

1988 年度

- ・「モッラー・サドラーとバーバー・アフザル・カーシャーニー」『オリエント』第 31 巻第 2 号、197 頁 【c】
- ・「書評：Takeshita, Masataka, *Ibn ‘Arabī’s Theory of the Perfect Man and Its Place in the History of Islamic Thought*」『オリエント』第 31 巻第 1 号、199-205 頁 【d】
- ・「新刊紹介：アルクーン、ガルデ著『イスラム 過去と未来』『オリエント』第 31 巻第 1 号、212-213 頁 【d】

- ・「東京大学東洋文化研究所所蔵 / ダイバー氏旧蔵写本コレクション / 特別展示 1988-11-24」[展示解説 無署名パンフレット] **[f]**
- ・「天理国際シンポジウム事務局編『天理国際シンポジウム '86 コスモス・宗教—ヒューマニズムを越えて』」『宗教研究』第62巻第3輯(278号)、86-89頁 **[d]**
- ・「クウェイト法務局寄贈図書紹介」『東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター報 センター通信』第29号、5頁 **[c]**
- ・「ファイド・カーシャーニーのイマーム論における神秘主義的位相」『西南アジア研究』第30号、56-70頁 **[b]**
- ・「シア・イスラームにおけるイマーム論の転変」『宗教研究』第62巻第4輯(279号)、123-125頁 **[c]**
- ・「新刊紹介：アルクーン、ガルデ『イスラム 過去と未来』、前嶋信次『イスラムの宗教と歴史』、牧野信也『イスラームとコーラン』、リーマン『イスラム哲学への扉—理性と啓示をめぐって』」『東京大学宗教学年報』第6号、182-183頁 **[d]**

1989年度

- ・「イスラームの話：スンニー派とシア派」『カイロ日本人会会報 パピルス』89-3、8-12頁 **[f]**
- ・「学振カイロ研究センターとは？」『カイロ日本人会会報 パピルス』89-9、26-27頁 **[f]**

1990年度

- ・「神秘体験と絶対者の認識・モッラー・サドラー」『週刊朝日百科・世界の歴史』第78号(17世紀の世界・1 人物)、C-504 **[c]**
- ・「イスラームにおける救済の前提—スンニー及びシア・ハディースにおけるイマーム観」『救済の諸相』(宗教学論叢2)吉田泰編山本書店、129-162頁 **[b]**
- ・「イスラーム神秘思想における時間 モッラー・サドラーとシャムスディーン・ダイラミー」『日本オリエント学会創立三十五周年記念オリエント学論集』日本オリエント学会(編)、刀水書房、93-110頁 **[b]**
- ・「サマー・スクール顛末記」『マディーニーヤ』第33号、7-10頁 **[f]**
- ・「アラビア語の本をめぐって」『東京大学附属図書月報 図書館の窓』第29巻第10号、95-97頁 **[f]**
- ・「報告：総括班主催臨時研究会「アラブ世界から日本を見る」」『マディーニーヤ』第35号、12頁 **[f]**
- ・「第三回全体集会の報告(5) 聖域・権力・経済構造」『マディーニーヤ』第37号、18-19頁 **[f]**

1991年度

- ・「アッラーマ・ヒッリーのイマーム論—『意図の解明・教義学綱要注釈』第五章訳注—」『東洋文化研究所紀要』第118冊、119-192頁 **[b]**
- ・「シア派イスラーム神学の形成—アッラーマ・ヒッリーの方法」『宗教研究』第64巻第4輯(287号)、141-142頁 **[c]**
- ・「紹介：Dānīshnāmāh-i Jahān-i Islām (The Persian Encyclopaedia of Islam), Tīhrān, 1990」『オリエント』第34巻第1号、144-145頁 **[d]**

1992 年度

- ・「庭園のアイデア」『事典 イスラームの都市性』亜紀書房、406-407 頁 **[c]**
- ・「イスラームにおける権威の構造」『権威の構築と破壊』（『現代宗教学』第 4 卷）脇本平也・柳川啓一（編）、東京大学出版会、115-136 頁 **[b]**
- ・「イラン・サファヴィー朝期の神秘主義的イマーム論」『オリエント』第 35 卷第 2 号、211-212 頁 **[c]**
- ・「イスラームにおける他宗教の理解—イブン・ハズムの創世記批判」『宗教と寛容—異宗教・異文化間の対話に向けて』竹内整一・月本昭男（編）、大明堂、220-238 頁 **[b]**
- ・「イスラーム講座 2 ハディース」『イスラム世界』第 39/40 号、95-110 頁 **[b]**
- ・「書評：Lazarus-Yafeh, Hava, *Interwined Worlds. Medieval Islam and Bible Criticism*, Princeton, 1992」『オリエント』第 35 卷第 2 号、178-182 頁 **[d]**

1993 年度

- ・「イスラームと輪廻」宝積比較宗教・文化研究所『宝積』第 3 号、33-39 頁 **[f]**
- ・「共編著」『神秘主義とシーア・イマーム論の出会い—ファイド・カーシャーニーの完全人間論』『超越と神秘 中国・インド・イスラームの思想世界』鎌田繁・森秀樹（編）（宝積比較宗教・文化叢書 2）、東京：大明堂、291-310 頁 **[a/b]**
- ・「イスラームにおける内面への沈潜 神秘家クシャイリーの神体験」『季刊 AZ』東京：新人物往来社、26-30 頁 **[b]**
- ・「イスラームの人間の生き方を知るために」（牧野信也訳『ハディース — イスラーム伝承集成』内容見本推薦文）中央公論社 **[f]**
- ・「シーア・イスラームのイマーム論」『宗教研究』第 67 卷第 4 輯（299 号）、138-139 頁 **[c]**

1994 年度

- ・「イスラームにおける契約—<原初の契約>をめぐって」『イスラームの思考回路』（『講座イスラーム世界』第 4 卷）竹下政孝（編）、栄光教育文化研究所、145-174 頁 **[b]**
- ・「イスラームと共同体」『世界の宗教』（放送大学印刷教材）阿部美哉（編）、放送大学教育振興会、102-113 頁 **[b]**
- ・「紹介：M.S. ゴードン著 奥西峻介訳『イスラム教』青土社、1994 年」『オリエント』第 37 卷第 1 号、163-164 頁 **[d]**
- ・「イスラームの知とハディースの知」（牧野信也訳『ハディース—イスラーム伝承集成』下巻付録月報）中央公論社、7-8 頁 **[f]**
- ・「<原初の契約>について—ラーズイーの注釈より」『宗教研究』第 68 卷第 4 輯（303 号）、139-141 頁 **[c]**

1995 年度

- ・“Metempsychosis (*tanāsukh*) in Mullā Ṣadrā's Thought”, *Orient* 30/31 [Special Issue: Studies by Members of the Society for Near Eastern Studies in Japan Dedicated to H.I.H. Prince Takahito Mikasa on the Occasion of His Eightieth Birthday], pp. 119-132 **[b]**
- ・「シーア派等諸派」『イスラーム研究ハンドブック』（講座イスラーム世界別巻）三浦徹・東長靖・黒木英充（編）、栄光教育文化研究所、35-41 頁 **[b]**

- ・「ダイバー・コレクション II について」『東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター報 センター通信』第36号、1-4頁【c】
- ・「シーア派資料による諸宗教の対論」『宗教研究』第69巻第4輯(307号)、106-107頁【c】
- ・「紹介:板垣雄三監修『講座イスラーム世界』全5巻・別巻1冊、栄光教育文化研究所、1994-95年」『オリエン特』第38巻第2号、175-178頁【d】
- ・「イスラーム学」『宗教学がわかる』(AERA Mook 11)朝日新聞社アエラ発行室、44-45頁【f】

1996年度

- ・「イスラームの時代」『宗教学を学ぶ』井上順孝・月本昭男・星野英紀(編)、有斐閣、200-218頁【b】
- ・「新刊紹介:牧野信也『イスラームの原点 コーランとハディース』、東長靖『イスラームのとらえ方』、宇野昌樹『イスラーム少数派から見た中東社会 イスラーム・ドルーズ派』」『オリエン特』第39巻第2号、141-142頁(無署名)【d】
- ・「イスラーム世界の暦」『宗教学を学ぶ』井上順孝・月本昭男・星野英紀(編)、有斐閣、219頁【f】

1997年度

- ・「イスラーム倫理」(35-36)、「ムハンマド」(294)、『倫理思想辞典』星野勉・三嶋輝夫・関根清三(編)、山川出版社【c】
- ・「初期イスラーム」(104-105)、「スンニー派」(106-107)、「ハワーリジュ派」(108)、「ムータジラ学派」(108)、「アシュアリー派」(108)、「ワッハーブ派」(109)、「シーア派」(110-111)、「十二イマーム派」(112)、「ザイド派」(113)、「イスマーイール派(セイマーム派)」(113)、「ニザール派」(113)、「イスファハーン学派」(114)、「シャイヒー派」(114)、「アフパール学派」(114)、「アハレ・ハック」(115)、「ドルーズ教」(115)、「ヌサイリー教(アラウィー派)」(115)、『世界の宗教101物語』井上順孝(編)、新書館【c】
- ・「悪:イスラーム」(12)、「イスマーイール派」(72)、「一神教/多神教」(84)、「井筒俊彦」(84-85)、「イフワーン・サファー」(93)、「イブン=ハズム」(95)、「イルファーン」(101)、「神:イスラーム」(259)、「ザイド派」(568-569)、「シーア派」(601)、「ジャービル・イブン=ハイヤーン」(700-701)、「ジャーファル・サーディク」(701)、「十二イマーム派」(724-725)、「修行」(737)、「照明哲学」(786)、「信仰:イスラーム」(815)、「聖者」(899)、「聖典解釈:イスラーム」(917-918)、「タフシール」(1038)、「知識:イスラーム」(1062)、「罪:イスラーム」(1099)、「人間観:イスラーム」(1230-1231)、「ハディース」(1278-1279)、「光:宗教思想」(1313)、「ミール・ダーマード」(1554-1555)、「瞑想」(1577-1578)、「モッラー・サドラー」(1594)、「ルーミー」(1708-1709)、『岩波哲学・思想事典』廣松渉・小安宣邦・三島憲一・宮本久雄・佐々木力・野家啓一・末木文美士(編)、岩波書店【c】
- ・「モッラー・サドラーのクルアーン解釈の一側面」『宗教研究』第71巻第4輯(315号)、165-166頁【c】
- ・[共編著]「不可知界への参入—モッラー・サドラーの聖典解釈論」『聖典と人間』市川裕・鎌田繁(編)、大明堂、206-223頁【a/b】
- ・「新刊紹介:Hans Daiber, *Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II*, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, 1996」『オリエン特』第40巻第1号、189頁(無署名)【d】
- ・「太陽とイスラーム」『宝積』第12号、2-4頁【f】

1999 年度

- ・「イスラーム—死を超える生」『死生観と生命倫理』関根清三(編)、東京大学出版会、80-92 頁 **[b]**
- ・「古典の写本(5) イスラーム学分野」『古典学の再構築』第5号、表紙裏-1 頁 **[c]**
- ・「イスラームにおける学の理念」『古典学の再構築』第5号、16-17 頁 **[c]**
- ・「イスラームにおける学問の分類」『宗教研究』第73巻第4輯(323号)、179-180 頁 **[c]**
- ・「新刊紹介：佐藤次高『イスラームの生活と技術』、アフマド・Y・ハサン、ドナルド・R・ヒル『イスラーム技術の歴史』」『オリエント』第42巻第1号、199-200 頁(無署名) **[d]**
- ・「新刊紹介：近藤二郎訳『パピルス』」『オリエント』第42巻第2号、184 頁(無署名) **[d]**

2000 年度

- ・「イスラーム世界の文化の特徴」『古典学の再構築』第7号、23-24 頁 **[c]**
- ・「注釈における革新—モッラー・サドラーのクルアーン注解—」『文学』2000年7/8月号(第1巻第4号)、岩波書店、49-66 頁 **[b]**
- ・「本への思い」『宝積』第17号(2000年7月1日)、2-4 頁 **[f]**

2001 年度

- ・「万華鏡としてのクルアーン」『アジアを知れば世界が見える』(東京大学東洋文化研究所創立六十年周年記念)東京大学東洋文化研究所(編)、小学館、126-137 頁 **[f]**
- ・「アタバート」(21-22)、「アフサーイー」(38)、「イスファハーン学派」(121-122)、「イブン・トゥルカ」(161)、「イルファーン」(178-179)、「エラノス会議」(218)、「クシャイリー」(328)、「グラート」(335)、「サッラージュ」(401-402)、「サブザヴァーリー」(412)、「シーア派」(428)、「シャルフ」(468)、「十二イマーム派」(477-478)、「ゾヌズイー」(586)、「トウスタリー」(669)、「バルザフ」(789)、「ヒッリー、アッラーマ」(811)、「ヒッリー、ムハッキク」(811)、「ミール・ダーマード」(951)、「ムッラー・サドラー」(975)、「輪廻」(1053-1054)、『岩波イスラーム辞典』大塚和夫・小杉泰・小松久男・東長靖・羽田正・山内昌之(編)、岩波書店 **[c]**
- ・「アフレ・ハック」(65)、「寛容」(194)、「グラート」(209-210)、「サルマーン・アルファーリシー」(247)、「シーア派」(251-252)、「シャイヒー派」(260)、「トゥーシー」(355)、「ハディース(シーア派)」(397)、『新イスラーム事典』日本イスラーム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高(監修)、平凡社 **[c]**
- ・「イスラームとは? 鎌田繁教授の話(第8回文京ぶらり散歩)」『東医器広報』第178号、14-15 頁 **[f]**
- ・「多元的共生のイスラーム的基礎づけについての覚え書き」『新分野開拓研究プログラム「アジア諸文化間の多元的共生を求めて—過去から未来へ」平成13年度報告書』、17-21 頁 **[f]**

2002 年度

- ・“Islamic Studies: Toward the Depth of a Civilization”, (Coauthored with Haruo KOBAYASHI) *Orient* 37 [Special Issue: Near Eastern Studies in Japan: Islamic Period], pp. 7-20; [Bosnian Translation] “Islamske studije (u Japanu): ka civilizacijskoj dubini”, (trans. by Nevad Kahteran), in *GLASNIK (The Herald of the Riyasat of the Islamic Community in Bosnia and Herzegovina)*, vol. LXV, No. 7-8, July-August 2003, Sarajevo, pp. 701-716; [Turkish Translation] “Japonya’da slam Arastirmaları: Bir Medeniyetin Derinliklerine Dogru”, (trans. by Mahmut SAL_İ_HOĞLU), in: *Çanakkale Onsekiz Mart Üniversitesi __İlahiyat Fakültesi Dergisi* 2014, Sa yı 4, Sayfa 97-110 **[b]**

- ・「イスラームの伝統的知の体系とその変容」『アジア学の将来像』東京大学東洋文化研究所(編)、東京大学出版会、405-430頁【b】
- ・「モッラー・サドラーの預言論—靈魂の精神的完成の文脈において—」『論集 古典の世界像』(平成10年度～14年度 文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究(A)118「古典学の再構築」研究成果報告集V A04「古典の世界像」班研究報告)、63-70頁【b】
- ・「発表に対して(1)」(日本宗教学会第61回学術大会特別部会「二一世紀における諸宗教の共存とアイデンティティの問題」)『宗教研究』第76巻第4輯(335号)、80-81頁【c】
- ・「イランつれづれ」『宝積』第21号、18-23頁【f】
- ・「表紙写真解説」『明日の東洋学』第8号、1頁【f】
- ・「連載:イスラームの世界1 [万有の主、神にこそ凡ての称讃あれ]」『宝積』第22号、18-21頁【f】

2003年度

- ・「クルアーンとイスラームの諸思潮」『岩波講座宗教4 根源へ 思索の冒険』池上良正・小田淑子・島蘭進・末木文美士・関一敏・鶴岡賀雄(編)、岩波書店、53-76頁【b】
- ・「イスラームの知と宗教間対話の意味」『グローバル時代の宗教間対話』星川啓慈・山梨有希子(編)、大正大学出版会、49-82頁【b】
- ・「イスラームの展開における聖典の役割」(日本宗教学会第62回学術大会特別部会1「宗教研究における聖典論—新たなパースペクティブの構築へ向けて—」)『宗教研究』第77巻第4輯(339号)、87-88頁【c】
- ・「連載:イスラームの世界2 [理由もなく人を殺す者は全人類を殺したのと同じである]」『宝積』第23号、16-19頁【f】
- ・「イスラーム 神の声をききながら生きる」『東京大学東洋文化研究所新分野開拓研究プログラム「アジア諸文化間の多元的共生を求めて—過去から未来へ」平成14年度報告書』、49-59頁【f】
- ・「教育・研究の現場から:東洋文化研究所」『淡青』東京大学広報誌第11号、23頁【f】
- ・「連載:イスラームの世界3 [彼は孤児のあなたを見つけられ庇護なされたではないか]」『宝積』第24号、19-22頁【f】

2004年度

- ・「<原初の契約>とイスラームの神秘家」『三笠宮殿下米寿記念論集』三笠宮殿下米寿記念論集刊行会、刀水書房、243-254頁【b】
- ・“Time and Space in Mullā Ṣadrā’s Mystical Thought through His Reference to Ushnuhī”, *Islam-West Philosophical Dialogue The Papers Presented at the World Congress on Mulla Sadra (May 1999 Tehran) vol. 9 (Mulla Sadra Religion and Gnosis)*, Sadra Islamic Philosophy Research Institute, pp. 217-232【b】
- ・「神秘主義の聖者とイマーム派のイマーム」『イスラームの神秘主義と聖者信仰』(イスラーム地域研究叢書7)赤堀雅幸・東長靖・堀川徹(編)、東京大学出版会、115-136頁【b】
- ・“Secrets”, *Encyclopaedia of the Qur’ān*, Jane Dammen McAuliffe (ed.), Brill, Vol.4, pp.572-573【c】
- ・「井筒俊彦」(30-31)、「イマーム」(33-34)、「シーア派」(172-173)、「ホメイニー」(471-472)、『現代宗教事典』井上順孝(編)、弘文堂【c】

- ・「現世の幸福と来世の幸福 イスラームの場合」『東京大学東洋文化研究所新分野開拓研究プログラム「アジア諸文化間の多元的共生を求めて—過去から未来へ」平成 15 年度報告書』、6-8 頁 **[c]**
- ・「連載：イスラームの世界 4 [ユースフの誘惑]」『宝積』第 25 号、9-12 頁 **[f]**
- ・「イスラームと一神教の展開」『同志社大学 21 世紀 COE プログラム—一神教の学際的研究 文明の共存と安全保障の視点から 2003 年度研究成果報告書』、同志社大学—一神教学際研究センター、151-166 頁 **[f]**
- ・「連載：イスラームの世界 5 [イスラームと犬 キトミールの話]」『宝積』第 26 号、12-15 頁 **[f]**

2005 年度

- ・“Mullā Ṣadrā between Mystical Philosophy and Qur’ān Interpretation; Through His Commentary on the “Chapter of Earthquake””, *International Journal of Asian Studies* 2(2), pp. 275–289; [Turkish Translation] “Kur’an Tefsiri ile Sufi Felsefe Arasında Molla Sadra Onun Zilzal Suresi Tefsiri Özeline”, (trans. by Enes ERDİM), *Dini Araştırmalar*, Mayıs-Ağustos 2007, Cilt: 10, s. 28, ss. 271–284. **[b]**
- ・「公開シンポジウム「宗教と文明間の対話」報告」『宗教研究』第 79 巻第 2 輯 (345 号)、1-18 頁 **[b]**
- ・“Fayḍ al-Kāshānī’s Walāya: The Confluence of Shi‘i Imamology and Mysticism”, *Reason and Inspiration in Islam: Theology, Philosophy and Mysticism in Muslim Thought: Essays in Honour of Hermann Landolt*, Todd Lawson (ed.), I.B.Tauris, pp. 455–468 **[b]**
- ・「諸宗教の共生とイスラーム」『ベルリン日独センター報告集』第 31 号 [シリーズ<東と西>「諸宗教の共生—グローバル化した世界における間宗教的・間文化的な共生」]、89-100 頁；[ドイツ語訳] “Das Zusammenleben der Religionen aus islamischer Sicht”, (übers. von Otto Putz), in: Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin (Hg.), *Veröffentlichungen des Japanisch-Deutschen Zentrums Berlin ((Symposium aus der Reihe “Der Osten - Der Westen”: Zusammenleben der Religionen Eine interreligiös-intellektuelle Aufgabe der globalisierten Welt 27.–28. September 2004) Band 53(Dezember 2005), S. pp. 102–116 **[b]***
- ・「イスラームという宗教：タウヒードの視点から」『現代世界における「宗教」研究の新動向を巡る調査および検討』（研究代表者：鶴岡賀雄 課題番号 15320012 平成 15-17 年度科学研究費補助金（基盤研究 (B)）研究成果報告書）、62-70 頁 **[b]**
- ・“Mafhūm-i nubūwat nazd-i Mullā Ṣadrā dar siyāq-i matn-i marbūṭ bih kamāl-i rūḥānī-yi nafs”, (tr. by Muḥammad Jawād Ismā‘īlī), *Majmū‘ah-i maqālāt-i hamāyish-i bayn al-milālī Qurtuba o-Iṣfahān du maktab-i falsafah-i islāmī*, Zīr-i nazar-o-ishrāf-i Duktur Sayyid ‘Alī Aṣghar Mīr Bāqirīfard, Intishārāt-i Anjuman-i Āthār-o-Mafākhir-i Farhangī, pp. 585–586 **[c]**
- ・「コメント [市川・手島氏の発表について]」『CISMOR ユダヤ学会議 (第 1 回: Papers & Discussions 日本におけるユダヤ学の現状)』第 1 巻、79-82 頁 **[c]**
- ・「連載：イスラームの世界 6 [あなたがたを互いに知り合うようにさせるためである]」『宝積』第 27 号、15-18 頁 **[f]**
- ・「連載：イスラームの世界 7 [神は天地の光である]」『宝積』第 28 号、13-16 頁 **[f]**

2006 年度

- ・「幸福と哲学者の営み—モッラー・サドラーの実体運動説の意味」『東洋文化』第 87 号 (特集：イスラーム思想の諸相)、163-180 頁 **[b]**

- ・「イブン・ハズムとユダヤ教」『CISMOR ユダヤ学会議(第2回 ユダヤ学の多様性：取り巻く異文化との対話 2006 December 9)』第2巻、61-70頁 **[b]**
- ・「イスラームの視座から(特集 宗教における「信」の諸相3)」『比較思想研究』第33号、20-28頁 **[b]**
- ・「イブン・シーナー」(48)、「イブン・ルシュド」(48-49)、「ガザーリー、アブー＝ハーミド・ムハンマド」(114)、「スーフイズム」(487-488)、「ムハンマド」(817)、『現代倫理学事典』大庭健(編集代表)、弘文堂 **[c]**
- ・「戒としてのシャリーアの意義」(日本宗教学会第65回学術大会パネル「戒と死：比較宗教の視点から」)『宗教研究』第80巻第4輯(351号)、175-176頁 **[c]**
- ・「淡青評論：本をまもる」『学内広報』、東京大学広報委員会、No.1337、24頁 **[f]**
- ・「連載：イスラームの世界8[われは泥の精髓から人間を創った]」『宝積』第29号、11-14頁 **[f]**
- ・「連載：イスラームの世界9[イン・シャー・ラー]」『宝積』第30号、14-16頁 **[f]**
- ・「おわりに」『東洋文化』第87号(特集：イスラーム思想の諸相)、227-231頁 **[f]**

2007年度

- ・「『コーラン』を読む」『いきいきトーク知識の泉 著名人が語る<知の最前線>2 古典への誘い』リブリオ出版、151-223頁 **[b]**
- ・「正義とイスラーム的思考」『正義および人権に関する比較思想的考察(研究代表者 宇佐美公生(岩手大学教育学部教授) 課題番号 16320013 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究成果報告書)、45-57頁 **[b]**
- ・「ムハンマド・アリー・ベク著『医術の蜜蜂』」(201)、「ジャバルティエ著『伝記と歴史における事績の驚異』」(203)、「ファイユミー著『ラーフィイー大注釈の難解語についての輝く燈の書』」(203)、「ハマザーニー作ムハンマド・アブドゥフ注釈『マカーマート』」(203)、『百学連環—百科事典と博物図譜の饗宴 雑協・書協創立50周年記念 世界出版文化史展』、凸版印刷株式会社印刷博物館 **[c]**
- ・「五十嵐一『イスラーム・ルネサンス』」(23)、「市川裕・鎌田繁『聖典と人間』」(36)、「大川周明『回教概論』」(77)、「黒田壽郎『イスラームの構造』」(137)、「ブルックス『楽園のデザイン』」(335)、「諸井慶徳『宗教神秘主義発生の研究』」(405)、『宗教学文献事典』島蘭進・石井研士・下田正弘・深澤英隆(編)、弘文堂 **[c]**
- ・「ダイバー・コレクションIIについて」『アジア学の明日にむけて』東京大学東洋文化研究所(編)、東京大学東洋文化研究所(白峰社印刷)、66-70頁 **[c]**
- ・「ちいさな研究所」『宝積』第31号、10-11頁 **[f]**
- ・「連載：イスラームの世界10[その日大地はすべての消息を語ろう]」『宝積』第31号、27-29頁 **[f]**

2008年度

- ・「十二イマーム・シーア派における哲学的思索—モッラー・サドラーにおける理性と啓示—」『シーア派諸社会の特質とネットワークを考察するための総合研究』(研究代表者 山岸智子(明治大学政治経済学部准教授) 課題番号 18201048 平成18年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(A)一般) 研究成果報告書)、122-126頁 **[b]**

- ・「宗教と文明間の対話—国際宗教学宗教学史会議第19回世界大会公開シンポジウム報告—」(第6部まとめと補遺 公開シンポジウム)(2005年版の改訂増補版)『宗教—相克と平和 <国際宗教学宗教学史会議東京大会(IAHR2005)の討議>』秋山書店、342-364頁 【b】
- ・「4-1 イスラム写本「ダイバー・コレクション」データベース」『アジア古籍電子図書館の構築の研究』(研究代表者 大木康(東京大学東洋文化研究所教授)課題番号 1620017 平成16年度~平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書)、85-89頁 【c】
- ・「昔のスコッチ、今のスコッチ」『JSTA 会報 Modern Scottie』第2号(2008年12月)、10-12頁 【f】

2009年度

- ・“Transmigration of Soul (*tanāsukh*) in Shaykh al-Mufid and Mullā Ṣadrā”, *Orient* 44, pp. 105-119【b】
- ・“The Place of Mullā Ṣadrā’s *Kitāb al-Mashā’ir* in Izutsu’s Philosophy”, *Intellectual Discourse* (International Islamic University Malaysia) 17(2), pp. 159-172 【b】
- ・「ムハンマドの言行録」(翻訳および解説)『世界史史料2 南アジア・イスラーム世界・アフリカ 18世紀まで』歴史学研究会(編)、岩波書店、141-143頁 【c】

2010年度

- ・“System of Knowledge in Islam and its Transformation”, *ISHRAQ: Yearbook of Islamic Philosophy, Russian Academy of Sciences Institute of Philosophy & Iranian Institute of Philosophy* No.1(2010), pp. 141-147 【b】
- ・「解題」『アラビア哲学—回教哲学』井筒俊彦(著)、慶應義塾大学出版会、247-264頁 【b】
- ・「シーア派神秘思想とスーフィズム：その連続性とクルアーンの役割」『イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史の視点から—』小林春夫・阿久津正幸・仁子寿晴・野元晋(編)、共同利用・共同拠点 イスラーム地域研究拠点 早稲田大学イスラーム地域研究機構、263-271頁【b】
- ・“Mullā Ṣadrā’s *imāma/walāya*: An Aspect of His Indebtedness to Ibn ‘Arabī”, *Journal of Islamic Philosophy* 6, pp. 67-78 【b】
- ・“The Place of Mullā Ṣadrā’s *Kitāb al-Mashā’ir* in Izutsu’s Philosophy”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The Legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Anis Malik Thoha (ed.), IUM Press International Islamic University Malaysia, pp. 41-51 【b】
- ・「メシア・メシアニズム」『宗教学事典』星野英紀・池上良正・氣多雅子・島菌進・鶴岡賀雄(編)、丸善、316-317頁 【c】
- ・“Book review: Mohamed Haj Yousef, *Ibn ‘Arabī - Time and Cosmology*, London & New York: Routledge, 2008”, *Journal of Islamic Studies* 21(3), pp. 418-420 【d】

2011年度

- ・“Mahdāyāt-o Āyīn-i Būdāyī-yi Māytrīya”, *Khabarnāma-yi Āyanda-yi Rowshan* (vīzha-yi Haftomīn Hamāyish-i Bayna’l-milālī Doktorīn-i Mahdawīyat) No.13(1390AHs/2011), (発表レジュメ), p. 99【b】
- ・“Unitive Experience of Islamic Mystics and their Discourses: Early Ṣūfīs and Mystical Philosophy in Islam”, *Religion: A Human Phenomenon: Proceedings of the XXth World Congress of the International Association for the History of Religions* (University of Toronto 15-21 August 2010), Donald Wiebe (ed.), The Institute for the Advanced Study of Religion, p. 276. 【c】

- ・「書評：ティエリー・ザルコンヌ著／東長 靖監修／遠藤ゆかり訳『スーフィー イスラームの神秘主義者たち』(知の再発見双書 152) 創元社 2011年」『イスラーム世界研究』5巻第1/2号、495-497頁 **[d]**
- ・「スンニー派とシーア派の違いって何？」『一個人』(保存版特集 イスラム教入門)2012年1月号(No. 140)、KKベストセラーズ、84-85頁 **[f]**
- ・「イスラム原理主義とは何か？」『一個人』(保存版特集 イスラム教入門)2012年1月号(No. 140)、KKベストセラーズ、86-87頁 **[f]**

2012年度

- ・[共編著]『世界宗教百科事典』世界宗教百科事典編集委員会(編)、丸善出版 **[a]**
- ・「『存在認識の道』—井筒東洋哲学を支えるもの」井筒俊彦とイスラーム—回想と書評」坂本勉・松原秀一(編)、慶應義塾大学出版会、379-388頁 **[b]**
- ・「イスラーム概説」(162-165) [20110824]、「シーア派」(182-185) [20110824]、「(リード文) イスラーム文化圏」(629)、『世界宗教百科事典』[共編著]世界宗教百科事典編集委員会(編)、丸善出版 **[c]**
- ・「スーフィズムにおける身心変容技法」『身心変容技法研究』(京都大学こころの未来研究センター)第2号、97-105頁 **[b]**
- ・「聖典解釈と哲学：イスラーム神秘思想の営み」『比較思想研究』第39号、143-148頁 **[b]**
- ・「(読書案内) シーア派と神秘主義」『歴史と地理』第654号(世界史の研究 231)、山川出版社、37-40頁 **[c]**
- ・「会長就任に際して」『オリエント』第55巻第1号、1頁 **[f]**

2013年度

- ・「マハディーとマイトレーヤ(弥勒仏)—イスラームと仏教における救済者—」『一神教学際研究』(同志社大学一神教学際研究センター)第8号、63-79頁 **[b]**
- ・“Mahdi and Maitreya (Miroku): Saviors in Islam and Buddhism”, *Journal of the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions* 8, pp. 59-76 **[b]**
- ・「他者との共生とイスラーム」『国際哲学研究』別冊3(共生の哲学に向けて—イスラームとの対話)、101-112頁 **[b]**
- ・「イスラーム神秘主義と流出論」『世界の宗教といかに向き合うか』(月本昭男先生退職記念献呈論文集第1巻)市川裕(編)、聖公会出版、103-119頁 **[b]**
- ・「イスラーム思想と井筒「東洋哲学」」(日本宗教学会第72回学術大会パネル「東洋の宗教思想と井筒俊彦」代表者 澤井義次)『宗教研究』第87巻別冊(特集第72回学術大会紀要)、36-37頁 **[c]**
- ・「書評：東長 靖『イスラームとスーフィズム—神秘主義・聖者信仰・道徳』名古屋大学出版会、2013年」『オリエント』第56巻第2号、101-105頁 **[d]**

2014年度

- ・「イスラームと仏教」『東洋学術研究』第53巻第2号(通巻173号)、25-51頁 **[b]**
- ・「井筒のイスラーム理解と流出論」(日本宗教学会第73回学術大会パネル「井筒俊彦の「東洋哲学」への宗教学的視座」代表者 澤井義次)『宗教研究』第88巻別冊(特集第73回学術大会紀要)、94-95頁 **[c]**

- ・「学会創立 60 周年に際して」『オリエント』第 57 巻第 1 巻、1 頁 **[f]**

2015 年度

- ・『イスラームの深層—「遍在する神」とは何か』(NHK ブックス 1233)、NHK 出版 **[a]**
- ・「イブン・スィナー著『医学典範』における歯痛の解釈」(戸田一雄と共著)『日本歯科東洋医学会雑誌』第 34 巻第 1/2 号、1-7 頁 **[b]**
- ・「他者との共生とイスラーム」(2013 年版の改訂版)『宗教の壁を乗り越える—多文化共生社会への思想的基盤』宮本久義・堀内俊郎(編)、ノンブル社、79-91 頁 **[b]**
- ・“Hidden Words (from *Kalimāt mahnūnah*), Divine Sciences (from Ma‘ārif ilāhīyah) [of Mullā Muḥsin Fayḍ Kāshānī, Translated from Arabic and Persian]”, *An Anthology of Philosophy in Persia, Vol.5 (From the School of Shiraz to the Twentieth Century)*, S. H. Nasr and M. Aminrazavi (eds.), I. B. Tauris, pp. 308–326 **[c]**
- ・「主旨とまとめ」(日本宗教学会第 74 回学術大会パネル「東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟」代表者 鎌田繁)『宗教研究』第 89 巻別冊(特集第 74 回学術大会紀要)、104-105 頁 **[c]**
- ・「新刊紹介：中田考監修、中田香織・下村佳州紀訳『日亜対訳クルアーン [付] 訳解と正統十読誦注解』」『オリエント』第 58 巻第 2 号、230-232 頁 **[d]**
- ・「垂幕のうしろから」学んだ井筒俊彦『井筒俊彦全集』(第 10 巻月報)、慶應義塾大学出版会、1-3 頁 **[f]**
- ・「歴代センター長より一言 鎌田繁 1989 年 3 月～1990 年 3 月」『日本学術振興会カイロ研究連絡センター三十周年記念』日本学術振興会 (JSPS) カイロ研究連絡センター、52-53 頁(英訳 54-55 頁、アラビア語訳 56-57 頁) **[f]**

2016 年度

- ・「クルアーンにおける意味の多層性とイスラームの展開」“*Great Transformation in Religion, Civilization and Great Accumulation of Merit*” *The International Conference for the Centenary of Won-Buddhism and the 70th Anniversary of WonKwang University 2016.4.28–30*, pp. 203–216, Korean Summary pp. 217–219.
(朝鮮語訳)「꾸란 의미의 다층성과 이슬람의 전개 (クルアーンの意味の多層性とイスラームの展開)」『원불교사상과 종교문화 (円仏教思想と宗教文化)』円光大学校円仏教思想研究院 69、425-451 頁; また記念論文集『종교·생명의 대전환과 큰적공』(종교 문명의 대전환과 큰 적공 총서, 02) 円光大学校円仏教思想研究院(編)(2016 刊行)に再録 **[b]**
- ・「クルアーンとイスラームの思索」『学会会報』918 号(2016-III)、49-53 頁 **[f]**
- ・“Muṭā‘alāt-i islāmī dar Zhāpon”, (tr) Sāsān Yaghmāy, *Falsafa wa-Kalām Nashriya-yi Iṭtilā‘āt-i Hikmat wa-Ma‘ārifat*, Year 11 No.5 (Mordād 1395 [2016.07.22–08.21]), pp. 17–19 **[f]**
- ・「イスラーム」『哲学中辞典』尾関周二・後藤道夫・古茂田宏・佐藤和夫・中村行秀・吉田傑俊・渡辺憲正(編)、知泉書館、51-52 頁 **[c]**
- ・「井筒のイスラーム研究と意味論」(日本宗教学会第 75 回学術大会パネル「井筒俊彦の「東洋哲学」における宗教と言語」代表者 澤井義次)『宗教研究』第 90 巻別冊(特集第 75 回学術大会紀要)、35-36 頁 **[c]**

- ・「ハディース [増補版]」『ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究』(代表者 市川裕 研究課題番号 25257008 2013～2016年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書)市川科研事務局(編)、349-361頁 **[b]**

2017年度

- ・(監訳・解説)「解説」『クルアーンにおける神と人間—クルアーンの世界観の意味論』井筒俊彦(著) / 鎌田繁(監訳) / 仁子寿晴(訳)、慶應義塾大学出版会、351-364頁 **[e/b]**
- ・(監訳・解説)「解説」『存在の概念と実在性』井筒俊彦(著) / 鎌田繁(監訳) / 仁子寿晴(訳)、慶應義塾大学出版会、243-252頁 **[e/b]**
- ・(監訳・解説)「解説」『イスラーム神学における信の構造』井筒俊彦(著) / 鎌田繁(監訳) / 仁子寿晴・橋爪烈(訳)、慶應義塾大学出版会、401-412頁 **[e/b]**
- ・「スーフイズムにおける身心変容技法」『身心変容のワザ～技法と伝承 身体と心の状態を変容させる技法と伝承の諸相』(身心変容技法シリーズ 第2巻)鎌田東二(編)、サンガ、294-311頁 **[b]**
- ・「井筒「東洋哲学」とイスラーム研究」(日本宗教学会第76回学術大会発表)『宗教研究』第91巻別冊(特集第76回学術大会紀要)、273-274頁 **[c]**

2018年度

- ・“Koran erklärt: Sure 99 Verse 1-5 ‘Das Erdbeben am Ende aller Tage’”, Erläutert von Prof. Shigeru Kamada, *Deutschlandfunk* <<https://www.deutschlandfunk.de/sure-99-verse-1-5-das-erdbeben-am-ende-aller-tage-100.html>> **[c]**
- ・[共編著]「東洋哲学」とイスラーム研究『井筒俊彦の東洋哲学』澤井義次・鎌田繁(編)、慶應義塾大学出版会、11-32頁 **[a/b]**
- ・「イスラームにおける死—自殺、殉教、安楽死—」『死生学年報 2019 (死生観と看取り)』東洋英和女学院大学死生学研究所(編)、リトン、29-46頁 **[b]**

2019年度

- ・「東洋文化研究所所蔵イスラーム写本」『特別展 東京大学東洋文化研究所×金沢文庫 東洋学への誘い』神奈川県立金沢文庫(編)、神奈川県立金沢文庫、92-95頁 **[c]**
- ・「キトミール考—イスラーム文化圏における犬と人」『自然を前にした人間の哲学—古代から近代にかけての12の問いかけ』神崎忠昭・野元晋(編)、慶應義塾大学言語文化研究所、137-162頁 **[b]**
- ・「井筒「東洋哲学」におけるモッラー・サドラー存在論の位置づけ」(日本宗教学会第78回学術大会パネル「宗教研究における井筒「東洋哲学」とその展開」代表者 澤井義次)『宗教研究』第93巻別冊(特集第78回学術大会紀要)、101-102頁 **[c]**

2020年度

- ・「4 信仰 [扉の文]」(141)、「アブラハム」(150)、「ジャーヒリーヤ時代の宗教」(156-157)、「クルアーン」(162-163)、『中東・オリエント文化事典』鈴木董・近藤二郎・赤堀雅幸(編集代表)、丸善出版 **[a/c]**
- ・「井筒俊彦とイスラーム神秘哲学」『宗教哲学研究』第38号、1-14頁 **[b]**

- ・「書評と紹介：松山洋平(編)、小布施祈恵子・後藤絵美・下村佳州紀・平野貴大・法貴遊(共著)『クルアーン入門』』『宗教研究』第94巻第1輯、154-160頁【d】
- ・「書評：小杉泰編訳『ムハンマドのことは ハディース』』『アジア・アフリカ地域研究』第20-2号、270-273頁【d】

2021年度

- ・「イスラーム神秘哲学における魂——モッラー・サドラー『神的明証』(III.3.1-5)和訳——』『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第53号(2022)、135-149頁【b】
- ・「コメント」(日本宗教学会第80回学術大会パネル「井筒俊彦の「東洋哲学」前夜」代表者 澤井真)『宗教研究』第95巻別冊(特集第80回学術大会紀要)、28-29頁【c】

2022年度

- ・「コメント」(日本宗教学会第81回学術大会パネル「井筒俊彦と東洋の思想家たち」代表者 澤井真)『宗教研究』第96巻別冊(特集第81回学術大会紀要)、71-72頁【c】

2023年度

- ・“Postscript”, *Knowledge and Power in Muslim Societies: Approaches in Intellectual History*, K. Morimoto & S. Rizvi (eds.), Gerlach Press, pp. 401-404【f】
- ・「第1講 イスラームの深層 ムスリムの思想や行動に底流するもの」『東大塾 現代イスラーム講義』長沢栄治・後藤絵美(編)、東京大学出版会、5-31頁【b】
- ・「イルファーンとイスラームの宗教構造」(日本宗教学会第82回学術大会パネル「宗教学における知の枠組みの再検討」代表者 澤井義次)『宗教研究』第97巻別冊(特集第82回学術大会紀要)、44-45頁【c】